

間山支会がりんご立木品評会で全県第3席、農林水産省東北農政局長賞を受賞

平成25年度青森県りんご立木品評会集団の部で当町の青森県りんご協会間山支会（出町敏彦会長）が初の全県第3席、農林水産省東北農政局長賞を受賞したことを記念し、1月10日（金）、豊明館で祝賀会が開催されました。

祝賀会では県産業技術センターりんご研究所の長内敬明所長が「間山支会は有袋果で出品しており、なおかつ着色が良く、管理も施されていて、収量が多いところが受賞のポイント」と審査報告を述べました。

賞状伝達後の祝辞でりんご協会の福士春男会長は「メンバーが培った技術を園地に結集した成果であり、青森県のリンゴ生産に大きく貢献してくれた」と述べると、受賞者を代表して出町会長が「今回の受賞は支会員の日々の努力と諸先輩方の教えによるもの。今後も支会全体の力を結集し、生産意欲を高めていきます」と謝辞を述べました。



△受賞した間山支会の会員の皆さん（左から、出町敏彦支会長、成田久衛さん（祝賀会当日は成田豊昭さんが代理出席）、出町太さん、出町国彦さん、花田一二三さん、出町文人さん）



△小林会長と笹森愛梨ちゃん・母の利香子さん

町内会で取り組む子育て支援

駅東町町内会（小林央史会長）では、町内で子どもが生まれた家庭に祝い金を贈る取り組みを行っています。

1月22日（水）、11月に生まれた笹森愛梨ちゃん（保護者：敏志さん）の自宅を小林会長が訪れ、祝い金を授与しました。

取り組みは小林会長が同町内会長に就任した平成21年度から始めており、これまで同町内では11人の赤ちゃんが生まれています。小林会長は「私たちの町内も高齢化が進んできたので、町内でたくさん子どもが生まれ、町の担い手になってもらいたい」と話し、また、祝い金を受け取った笹森愛梨ちゃんの母の利香子さんは「子育てに役立てたい」と話していました。

五穀豊穡を願い鶴田町の伝統文化「弥生画」を奉納

五穀豊穡を願い制作する弥生画の奉納が山道地区と元町地区で行われました。

12月30日（月）、山道地区の山道弥生画保存会（小野寺秀昭会長）では山道老人憩いの家に会員が集まり縦1.9m、横3.2mの弥生画を搬出し、閻魔神社の大鳥居へ奉納しました。金運や夫婦円満の願いを込め「弁財天」と名付けられた今年の弥生画は、顔にメロンの種

子を使うなど十数種類の穀物や種子を材料の色を生かすため、要所で使い分ける技法により昨年11月から制作しました。小野寺会長は「伝統を絶やしたくない。これからもずっと続けていきたい」と話していました。

また、31日（火）、元町弥生会（澤田記成会長）でも午年にちなんで制作した弥生画「塞翁が馬」が鶴田八幡宮に奉納されました。



△元町弥生会の弥生画「塞翁が馬」の奉納作業



△山道弥生画保存会の弥生画「弁財天」の奉納作業



△ヤクルトレディから車いすが引き渡されました

青森ヤクルト販売株式会社が車いすを寄贈

青森ヤクルト販売株式会社（武田隆一代表取締役社長）では、当町の社会福祉協議会（中野撃司会長）へアルミ製の車いす1台を寄贈しました。同社では昭和55年度から収益の一部を活用し社会福祉活動に役立ててもらう「福祉ヤクルト」を行っており、平成16年度から県内の社会福祉協議会・福祉施設・公共施設などへの車いすの寄贈を続けています。今年度は県内の各社協に計18台の車いすが県社会福祉協議会を介して寄贈されました。1月9日（木）、町保健福祉センター「鶴遊館」で行われた寄贈式では、ヤクルトレディの齋藤夢香さんから中野会長へ車いすが引き渡されました。齋藤さんは「鶴田町のおじいちゃん、おばあちゃんに使ってもらいたい」と話していました。

ハイコンポーネンツ青森が車いすを寄贈

ハイコンポーネンツ青森株式会社（竹内茂代表取締役社長）では12月27日（金）、社員有志による募金活動で購入した補助器具付きの車イス3台を当町の社会福祉協議会へ寄贈しました。

地域密着型特別養護老人ホーム「鶴のまどい」で行われた寄贈式では、同社生産統括部の相馬日出忠部長が「地域の会社として地元へ貢献したいと思い寄贈した。坂道だと車イスを押すことは大変なので、補助器具を使って楽に介助してもらいたい」とあいさつを述べました。

町社会福祉協議会の一戸勇副会長は「車イスは福祉施設には必要不可欠で、今回寄贈していただき、感謝に絶えません。これからも地域の皆さんと一体となった福祉活動を進めていきたい。」とお礼を述べていました。



△一戸副会長が車イスに試乗し、相馬部長から補助器具の説明を受けていました



△鶴田高校の生徒の皆さんと棟方弘己理事

鶴高生がプルタブを集めて車いすを寄贈

鶴田高校（西谷寿彦校長）の生徒が1月16日（木）、車いす2台を当町の社会福祉協議会へ寄贈しました。

平成23年度から続けている車いすの寄贈は同校生徒会と保健委員会が共同で企画。昨年度から2年間、生徒にチラシやポスターでプルタブの回収を呼び掛け、約100kgのプルタブを収集し、同校の文化祭「鶴高祭」での3年生の模擬店の売り上げを合わせ、車いすを購入しました。

町保健福祉センター「鶴遊館」で行われた寄贈式には、保健委員長の成田昌樹さんと生徒会長の小山内滉さん、前生徒会副会長の尾崎加奈さんが、町社会福祉協議会の棟方弘己理事に車いすを贈りました。車いすは鶴遊館に常設し、在宅する町民の方へ貸し出す予定です。

【広報つるた有料広告】



(株)津軽りんご市場

〒038-3684 北津軽郡板柳町大字三千石字二湯 21-3

TEL **0172(72)1211** FAX **0172(72)1229**

ホームページ <http://tsugaruringo.jp/>

青森りんごは元気の源!

おめで、はつららが〜 自然災害から経営を守る

りんご共済

加入申込受付 3/25まで 総合短縮方式導入

ぶどう共済もあります **NOSAI 津軽広域農業共済組合**
〒037-0011 五所川原市金山字竹崎203-4 TEL 33-1513